

「地域未来塾」取組事例集

～ 平成29年度 ～



長野県教育委員会事務局

文化財・生涯学習課

目 次

市町村/学校組合 (地区ごと五十音順)	学校名(実施事業名)	ページ
《東信地区》		
御代田町	御代田中学校「ステップアップスクール」	1
《南信地区》		
阿智村	阿智中学校「若駒アカデミー」	2
飯島町	飯島中学校	3
伊那市	伊那中学校「地域未来塾」	4
駒ヶ根市	東中学校	5
喬木村	喬木中学校「喬木未来カレッジ」	6
高森町	高森中学校「小原ヶ丘塾」	7
富士見町	富士見中学校「グローアップ講座」	8
松川町	松川中学校「てらこや松中」	9
宮田村	宮田中学校「うめっこ塾」	10
《中信地区》		
生坂村	生坂中学校「生坂未来塾」	11
池田町	高瀬中学校「教科学習支援塾」	12
麻績村筑北村学校組合	筑北中学校	13
塩尻市	丘中学校「放課後チャレンジタイム」	14
松川村	松川中学校「放課後学習教室」	15
《北信地区》		
小布施町	小布施中学校「夏期セミナー・学習支援セミナー」	16

※複数校で地域未来塾事業を行っている自治体においては、1事例の掲載としています。

「ステップアップスクール」(御代田町立御代田中学校)

事業実施状況

担当課・係	御代田町教育委員会 学校教育係	
活動場所	御代田中学校	
登録人数	3年生 英語11名・数学9名	
実施日等	平日	毎週水曜日 放課後午後3時半～4時半
	土日	—
	長期休業	夏休み 7月31日～8月10日
実施教科	英語・数学	
負担金	なし(テキスト代 実費)	
学習形式	授業形式	



コーディネーター	行政職員1名
学習支援員	元教員1名、その他1名
ボランティア	—

主なICT機器	ICT機器の活用(有 無)
	—

取組の具体

- 3年生の希望者を対象として、英語コース・数学コースのどちらか1コースを選択して授業を実施している。
- 教科書に沿ったテキストを使い、授業形式で学習を行っている。
- 水曜日(部活動のない日)の放課後1時間で実施している。
- 長期休業の夏休みは平日の午前中1時間で10日間程度実施。

気づいたことや成果

- 受験を控えた3年生を対象としているため、真剣に取り組む生徒が多く、成果が期待できる。
- 少人数であるため、生徒一人ひとりに目が届き、アドバイスができて良い。

課題や反省点

- ・部活動のない水曜日で始めたが、文化祭の前など、参加できない生徒が多いため、実施時間等の検討が必要。
- ・平日の昼間に開催のため、講師をやっていただく方の確保が難しい。
- ・1時間、1教科のみ実施しているが、他の教科も希望する声が多くなってきた場合は課題が多い。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇学校登校している放課後に学習できるのは、ありがたいと思う。
- ◇人数が少なめなので、普通の授業の時より個人の質問等にすぐ対応してもらえるので良い。
- ◇平日のため、学校行事や委員会等があって、出席できない時があるので困る。

〈保護者の声〉

- ◇学校終了後、家にいったん帰らずそのまま受けられるので良い。

「若駒アカデミー」(阿智村立阿智中学校)

事業実施状況

担当課・係	阿智村教育委員会 学校教育係	
活動場所	阿智中学校	
登録人数	3年生 (第一期49名、第二期28名特講38名)	
実施日等	平日	火・木曜日 29年度31回 (6月より2月まで不定期)
	土日	なし
	長期休業	なし
実施教科	国語・数学・英語の3教科5講座	
負担金	なし	
学習形式	授業形式・個別学習	



コーディネーター	元教員(1名)
学習支援員	元教員(5名)
ボランティア	なし

主なICT機器	ICT機器の活用(有(無))
	—

取組の具体

- 5月に中学3年生から第一期(6月から10月)受講希望者を募る。11月に第二期(12月から2月)の希望者を募る。(1講座1名から15名程度としたが本年度は原則本人の希望を尊重)
- 数学と英語は基礎講座と応用発展講座。国語は読解講座の計5講座。
- 1講座の時間は最短25分から最長140分。(スクールバスの時刻に合わせるため)
- 支援員控室として中学校の職員室の一角を借り、支援員の連絡調整や中学校職員との連絡を常に取れるようにしている。
- 年間カリキュラムは講師の先生の計画で進めていく。

気づいたことや成果

- 授業形式では、授業の速さや内容(量も含む)等多くの受講生が満足している。しかし、各講座で自分の学力と期待感のずれがある生徒が若干でた。2名ほど講座を変更した。
- 中学校の授業終了後の開講であるため、疲れが出てしまうが、熱心に集中して学習に取り組んでいる。
- 支援員(講師)が生徒の実態に合わせて内容や個別指導に当たってくれている。
- 今年度一年目で支援員の先生も手探り状態である。生徒の声を聞きながら改善策を検討したい。

課題や反省点

- ・スクールバスの時刻に合わせて開講しているため、冬場の時間が短く、学習内容の選択が難しい。
- ・普通日の開講であるため、生徒会の仕事や部活動参加など個々の活動が入り講座に出席できない状況が出てしまう。欠席した生徒への連絡や補充の方法などの工夫が必要。
- ・能力差の大きい講座が生まれた時は、共通問題、レベルアップ問題などを用意するなど配慮し、変更希望が出た時は受講生の思いをコーディネーター・講師・教頭の三者合意の上認める。
- ・受講生の願いや必要感に合う講座の工夫をする。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇数学で教科書に載っている解法だけでなく、見方や考え方の異なる解法を教えていただいてびっくりした。(数学 応用発展講座受講生)
- ◇国語の授業でやったことがしっかりと復習できるプリントがほしい。(国語読解講座受講生)
- ◇理科や社会科もやってほしい。(英語 基礎講座受講生)

〈保護者の声〉

- ◇スクールバスの乗車時間まで、学校で教えてくれることはうれしい。
- ◇講座で学んだことで点が取れるようになったという実感を生徒が持ちたい。「学ぶ楽しさ」「わかる喜び」「学ぶ意欲の向上」を体得して、今後の学習につなげていきたい。
- ◇1・2年生も講座に参加できるように工夫してほしい。

飯島町立飯島中学校

事業実施状況



担当課・係	教育委員会こども室	
活動場所	飯島中学校	
登録人数	20名	
実施日等	平日	水曜日午後3時から午後5時
	土日	土曜日午後1時から午後3時
	長期休業	
実施教科	数学 英語	
負担金	なし	
学習形式	個別学習、授業形式両方	

コーディネーター	元教員1名
学習支援員	元教員7名、高校非常勤講師1名、学習塾英会話教室講師等2名、大学生3名、高校生1名、その他3名(合計17名)

主なICT機器	ICT機器の活用(有)・無)
	電子黒板1台、タブレット20台、プロジェクター1台、映像スクリーン1台

取組の具体

- 1、2年生と3年生のクラスに分かれ、1日のうち英語と数学を時間で交互に実施している。
- 生徒は普段の授業や宿題で分からないところを学習サポーターに聞いている。
- 特設講座を2か月に1回ほど実施し、様々な職業の様子や高校についての授業を行っている。

気づいたことや成果

- 始めた当初は、学習サポーターも生徒も緊張していたが、慣れてきて気軽に声掛けし勉強している。
- 普段勉強しない生徒も勉強するようになった。
- サポーターも中学生と関わることを楽しくやってくれている。
- 学力の向上。

課題や反省点

- ・学習サポーターの確保
- ・学力に差がある生徒への対応
- ・生徒の募集
- ・開催日

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇学校の先生に聞けないことも気軽に聞ける。
- ◇先生がいっぱいいるので、聞きやすい先生に聞ける。
- ◇友達と勉強できて楽しい。
- ◇高校に行きたくなった(特設講座)。

〈保護者の声〉

- ◇勉強を家でしないので、とても助かる。
- ◇無料でやってくれてうれしい。

「伊那市立伊那中学校地域未来塾」 (他、5中学校で実施)

事業実施状況



担当課・係	伊那市教育委員会 学校教育課教育総務係	
活動場所	伊那中学校	
登録人数	1年28名 2年19名 3年21名	
実施日等	平日	毎週水曜日 放課後午後3時20分～5時20分
	平日	毎週金曜日 放課後午後4時20分～6時20分
	長期休業	8月17、18、21、22日
実施教科	数学 英語	
負担金	なし	
学習形式	個別学習	

コーディネーター	本校教頭
学習支援員	15名
ボランティア	

主なICT機器	ICT機器の活用(有)無)
	タブレット;8台 電子黒板;-

取組の具体

- 少人数にグループ化し、自分で解きながら質問ができるように組織化。
- 支援員が支援しやすいように、数学科と英語科の教師が参加し、参加生徒の性格や学力、生徒個々につけたい力や該当生徒の伸びと問題点などを随時伝えながら指導に役立っている。
- 自分で個別学習ができない生徒、何から勉強をすれば分からないと悩んでいる生徒、学習習慣の定着が不十分な生徒、得点力を上げたい生徒などに呼びかけ、全ての生徒が、理解度に合わせて自主的に学習できる機会としている。

気づいたことや成果

- 学力向上支援員を継続していただいている方に目標と課題が生まれ、それらに沿って実践する人が増えてきている。
- ipadが導入されたので、積極的な活用を考えていきたい。
- 放課後学習は、可能な限り各生徒にあった教材を使用したい。通常の授業(30人)では出来ない細かい対応に心がけたい。

課題や反省点

- ・生徒の学習意欲に差があり、本気になって取り組む生徒、ややあきらめ気味の生徒、親の希望で受講している生徒がおり、少人数で個々に応じた対応が必要である。
- ・支援員の数と希望者の関係で、1名で最大7名の生徒を教えているケースがある。個々に応じた指導としては、支援員を増やし、さらに少人数での学習にしたい。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇前まで出来なかったことが、放課後学習でできるようになったことが多かったです。
- ◇丁寧に優しく教えていただきありがたかった。分かるまでゆっくり教えていただけた。
- ◇発展コースでは、応用問題をじっくり教えてもらったのでとてもよかった。

〈保護者の声〉

- ◇放課後学習に参加するようになってから、家庭での学習の様子が変わってきました。また、授業でわからなかったことがわかるようになってきたと喜んでいきます。
- ◇学校で質問できなかった内容を聞いて、丁寧に説明してくれてうれしいと言っており、ありがたいです。

駒ヶ根市立東中学校（他、1中学校で実施）

事業実施状況



担当課・係	駒ヶ根市教育委員会 子ども課学校教育係	
活動場所	東中学校	
登録人数	1年17名 2年23名 3年12名	
実施日等	平日	毎週水曜日 放課後午後3:40～4:40
	土日	
	長期休業	7月27日～8月2日
実施教科	数学 英語	
負担金	なし	
学習形式	個別学習、グループ学習、 授業形式	

コーディネーター	教頭
学習支援員	元教員、塾講師、保護者
ボランティア	元教員、塾講師、保護者

主なICT機器	ICT機器の活用(有)無(必要に応じて)
	タブレット

取組の具体

- 夏休み中の学習については、あらかじめ希望者を募り、休み中の学習習慣形成、1学期の授業の補充、休みの課題へのアドバイス等を目的に行った。主に1年生を対象とした。
- 放課後学習については、文化祭が終了した10月から半年間、2、3年生を対象に行った。2年生は授業の補充、3年生は受験に向けたテスト対策を目的とした。

気づいたことや成果

- どのボランティアの方々も、声をかけるとたいがい快く引き受けてくださり、数年継続して事業を行っていることで、ボランティアの方々和学校とのつながりができつつあるのではと感じている。
- 他の生徒が参加していることに刺激を受け、申し込む生徒もおり、放課後学習の実施が学習意欲につながっていると思われる。
- 夏休み、年度の後半等時期を限定することにより、参加者を確保することができる。

課題や反省点

- ・1クラスの数が増えると、一斉授業式の形態になり、生徒個々のニーズに応えることが難しくなる。
- ・個々の生徒の希望に応じて参加を募っているが、学校側として学習してほしい生徒への参加をどのように促していけばよいか課題である。
- ・学校でもICT機器を準備しているが、利用するとほぼ個別学習になってしまうため、生徒やボランティアの方々のニーズに合わず、十分活用しているとは言えない。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇授業の復習になるので、参加してよかった。
- ◇受験対策を教えてもらえるのでよかった。
- ◇家では勉強できないので、学校で勉強できてよかった。

〈保護者の声〉

- ◇学校で補充学習をやっていただけのは大変ありがたい。
- ◇少しでも勉強する時間を長くしてほしいと思い、参加させることにしました。

「たかぎ未来カレッジ」(喬木村立喬木中学校)

事業実施状況

担当課・係	喬木村教育委員会 子ども教育係	
活動場所	喬木中学校	
登録人数	1年13名、2年12名、3年8名	
実施日等	平日	毎週水曜日 午後3時30分～午後4時30分
	土日	—
	長期休業	春季・夏季休暇に各5日程度
実施教科	数学、英語、理科、社会	
負担金	なし (ただし、保険料800円は別途徴収)	
学習形式	個別学習	



コーディネーター	行政職員、地域おこし協力隊(各1名)
学習支援員	ICT支援員(3名)、塾講師(1名)
ボランティア	なし

主なICT機器	ICT機器の活用(有・無)
	タブレット33台(登録生徒数分) オンライン学習ソフト「eboard」「eライブラリ」

取組の具体

- 1～3年生の希望者が、毎週水曜日の放課後にICT機器を使った学習を行い、基礎学力の向上を目指す。
- コース選択制とし、「基礎コース」は復習をメインとした積み上げ学習、「発展コース」は応用問題や苦手分野を中心とした学習を行い、生徒の自学を支援員がサポートする。
- 3年生は、受験対策も含め、ドリル教材「eライブラリ」を併用したブレンディッドラーニングを行っている。(今後、1～2年生にも拡大して実施)

気づいたことや成果

- 授業動画を見て解法を理解し、問題を解いて確認するという一連の流れが身につけてきている。自学の姿勢ができつつあり、自分のペースで学習を進めることができるようになってきている。
- 当初、全学年が1つの教室で学習していたが、学年で教室を分けたことで、より集中して学習に取り組める環境に変えることができた。個別のフォローもしやすくなり、一人一人にしっかり寄り添った細かい支援ができるようになった。

課題や反省点

- ・地域人材を活用した支援員の確保及び育成
- ・生徒のモチベーションをどう維持するか
- ・個別フォローの体系化
- ・支援員研修の実施
- ・授業動画の視聴方法
(現在はイヤホンを使った視聴だが、イヤホンを装着していることで支援員が生徒に声をかけづらい状況となっているため、視聴方法について検討していく必要がある)

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇自分の勉強不足で1ヶ月にできた範囲は少なかったが、やったことのない範囲も学習して、予習にもなったので良かった。
- ◇未来カレッジで学習し、学校の授業でやって、さらに理解が深まった。来月はもっと難しいところを勉強したい。

〈保護者の声〉

- ◇放課後に補習をしてもらえるのはありがたい。
- ◇子ども達のモチベーションを下げないようにいろいろな配慮・工夫をしてもらいたい。

「小原ヶ丘塾」(高森町立高森中学校)

事業実施状況



担当課・係	高森町教育委員会事務局 こども未来係
活動場所	高森町立高森中学校
登録人数	1年49名 2年32名 3年59名 ※平成29年末時点
実施日等	平日 毎週月曜日 午後4時30分～午後5時50分
	土日 毎週土曜日 午前8時30分～午前11時20分
	長期休業 8月1日(月)～8月5日(金)
実施教科	英語、数学、理科、国語 ※他教科の自習も可。
負担金	なし
学習形式	自習および授業形式

コーディネーター	行政職員(1名)
学習支援員	元教員(4名)、その他(1名)
ボランティア	—

主なICT機器	ICT機器の活用(有・無)
	タブレット 40台 電子黒板 1台

取組の具体

① 勉強のみに集中でき、学習意欲を高める環境

空調のきいた静かな空間の中で、集中して学習に取り組める環境を用意しています。友達と助け合い(教え合い)かつ刺激し合いながら、学習意欲を高めることができます。

② 個人のペースに合わせた学習

自習を主に、個々の学習ペースに合わせた主体的な学習が行えるよう、各部屋に講師を配置しているため、好きなタイミングで質問や個別指導が受けられ、積み残し(宿題や授業での不明点等)の解消を図ることができます。

③ タブレット等によるWeb学習

教室にタブレット等のICT機器を設置し、Webドリル(学習指導要領準拠・小1～中3まで出題範囲を選択可)等で苦手な単元の克服や振り返り学習等ができます。

④ 生徒の主体性や意欲を伸ばす

生徒の主体性や「学びたい」という意欲を大切にするため、出欠判断は生徒自身に任せ、欠席連絡も強制をせず、途中での出・退席も可能としています。

気づいたことや成果

- 学習面だけでなく、部活を引退した3年生の規則正しい生活習慣や、1年生の学習習慣の修得にも繋がっている。
- 塾に対して生徒・保護者ともに肯定的な意見や開催数の増加を望む声が多く、当初、隔週で実施してきたものを毎週実施に増やした。
- 友人と机を囲んだ方が、自宅で一人学習するよりも集中して取り組めるようで、ねらい通りの効果が得られている。

課題や反省点

- ・保護者から入試対策等を要望する声がある
→目的はあくまで基礎学力の向上であり、周知が必要。
- ・学習形式や講師陣の充実を望む声が多い
→塾単独では難しく、学校からの協力が不可欠。
- ・講師への質問数の伸び悩み。質問者の固定化
→今以上に質問しやすい環境づくりや仕掛けが必要。
- ・申し込んだが一度も出席していない生徒が数名いる
→担任等と連携し、出席につながるアプローチが必要。

中学生・保護者の声(参加者アンケートより)

〈中学生の声〉

- ◇講師の先生の教え方が優しく、かつ、学校の普段の授業よりも分かりやすい説明でとても良い。(3年生生徒)
- ◇タブレットでも、問題が沢山あるので、沢山解くことが出来るのが嬉しい。(3年生生徒)
- ◇強制参加ではないのが良い。(2年生生徒)
- ◇学校でみんなとやるから集中できる。分からないところを聞き合える。(2年生生徒)
- ◇タブレットドリルは、解けなかった問題を記録しておいてくれるのがとてもよい。(2年生生徒)

〈保護者の声〉

- ◇休日でも決まり良く生活し、学習することで、良い習慣がついた。(3年生保護者)
- ◇塾に通うとなると時間が...お金が...と思っていましたので、ありがたかったです。(3年生保護者)
- ◇簡単なテスト方式みたいなものがあればいいと思います。(3年生保護者)
- ◇部活の無い日のだらだら防止になり、宿題も済ませてくれるので自宅では家族で楽しく過ごせて良い。(1年生保護者)

「グローアップ講座」(富士見町立富士見中学校)

事業実施状況



担当課・係	富士見町教育委員会 子ども課 地域連携推進支援主事	
活動場所	富士見中学校	
登録人数	1年122名 2年120名 3年111名 計353名	
実施日等	平日	毎週水曜日放課後15:30~17:00 10月より月曜日以外朝7:35~8:05
	土日	
	長期休業	夏休み・冬休み・春休み各3~5日
実施教科	国語・数学・英語・理科・社会	
負担金	なし	
学習形式	個別学習	

コーディネーター	元教員(1名)
学習支援員	行政職員(3名)
ボランティア	元教員(9名) 塾講師(2名) 議員(1名) 元教授(2名) その他(3名)

主なICT機器	ICT機器の活用(有)無)
	パソコン タブレット

取組の具体

- 水曜日放課後実施「夕学」について ・月ごとに設定テーマで全校生徒に参加を募り、希望者に対して実施。国数英の支援を行う「グローアップタイム」と自由学習の「フリータイム」の組み合わせ。ボランティアの参加を確認し参加生徒数を考え担当を決め支援する内容の打ち合わせを事前に行い支援。
- 10月から実施の「朝学」は、3年生対象の高校入試対策講座。理科・社会の全範囲の復習や長野県などの昨年度入試問題への取組・プリント選択での学習への支援を行っている。
- 長期休業の「課題対応」「達人講座」で休みの課題取組の支援や講師の専門性を生かした講座開設。

気づいたことや成果

- 生徒の学習意欲・必要感を大切に考えた方向は良い。生徒の学習意欲を大切にし個に応じた支援をしている。5月の一年生対象の家庭学習講座は良かった。
- 参加生徒は、多い。就学援助生徒の参加もある。
- プリント用意により、生徒もボランティアも内容が明確になり一回が充実している。生徒にも手応え感!
- ボランティアにより個に応じた支援も可能に。
- フリータイムでの学習相談や個別相談にも応じる体制もでき始めた。

課題や反省点

- ・学力的に参加してほしい生徒などに担任からの声かけもあり、参加する生徒も増えている。参加することで、成果を生徒が感じられると良い。
- ・中学校の授業で使用している問題集を中心にプリントを作成している。「家庭学習の手引き」を共有し家庭学習支援にも役立っている。中学校側の見直しもあり、更に充実を模索中。
- ・熱意のあるボランティアの方に支えられている。様々な意見を聞く機会を定期的に設定した。日により講師の少ない日もあった。

中学生・保護者の声

- <一年> ・分からない所をていねいに教えてくれた。 ・自分の苦手な場所が分かりやすかった。
- <二年> ・自分のペースで勉強できる。 ・補充講座は分からない所で手が止まっていたらすぐ教えてくれた。
- <三年> ・分からないことを親切に教えて下さったと思う。朝から学習できて頭が働いた。教えて下さるボランティアが十分にいて分からないものが分かるようになった。 ・分からないことなど一緒に考えてくれたり教えてくれたりして覚えやすかったです。プリントにたくさんの種類があり、やりたいところを決めやすかったです。
- <保護者> ・分からない所が分かると言っていました。進んで行くので本人には合っているんだと感じております。 ・早く課題(宿題)を済ませたい様子で下校後すぐに取り掛かることができ、また集中してできるということでもとても良い機会だと思ふ。 ・本当に感謝しております。ご自身の大切な時間を子どもたちのために使っていただき教えて下さり本当にありがとうございます。おかげ様で子どもも学習に対し前向きに取り組んでいます。

「てらこや松中」(松川町立松川中学校)

事業実施状況

担当課・係	松川町教育委員会 生涯学習課 生涯学習・男女共同参画係	
活動場所	松川中学校	
登録人数	2年42名 3年39名	
実施日等	平日	毎週水曜日、12月13～19日 放課後午後3時半～4時半
	土日	なし
	長期休業	8月2～8日
実施教科	数学 英語	
負担金	教材費(町負担) 英語約400円、数学約700円	
学習形式	授業形式	



コーディネーター	行政職員(1人)
学習支援員	元教員(3人)・塾講師(1人)
ボランティア	ALT(1人)・元教員(3人)・塾講師(1人)

主なICT機器	ICT機器の活用(有)無)
	タブレット40台 電子黒板1台

取組の具体

- 5月～9月までを「前期」、10月～2月までを「後期」に分け、事前に登録した生徒が放課後学習に取り組んでいる。また、夏休み期間と冬の懇談会期間には、3年生を対象とした補習学習に取り組んでいる。
- 地域の多くの講師に協力いただき、少人数のコースに分けた学習指導で1人1人のつまづきに対応できるよう、工夫している。
- 学校の教職員と地域講師の方との情報交換(運営委員会)を定期的に行い、共通理解をもって学習支援にあたっている。

気づいたことや成果

- 英語、数学の各教科で共通教材を設定し、受講生徒に無料配布することで、意欲付けや見通しのある学習支援ができています。
- 通常授業では自主的に発言や質問ができない生徒も、少人数学習の中で、安心して発言できる環境ができています。
- 学校側からも、積極的な声かけや事業のサポートをしてくれ、地域一体で学習支援ができています。

課題や反省点

- ・学校の教員と地域講師の方との連携や情報交換の場を、今後も継続して設けていく。
- ・様々な背景から学習支援を必要としている生徒に情報が届くよう、事業の取り組みを生徒や保護者に伝えていく。
- ・他教科でも学習支援ができるよう、講師の募集を継続する。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇1人で勉強すると、わからない所をそのままにしてしまうが、すぐに質問できるので嬉しい。
- ◇学校の授業でわからなかったり忘れてしまった所を、丁寧に優しく教えてくれるのでわかりやすい。
- ◇受講しているみんなも頑張っているの、家でやるよりも集中して勉強ができる。

〈保護者の声〉

- ◇塾に行っていないので、無料で苦手な教科を教えてくれるのはとてもありがたい。
- ◇家だとなかなか勉強ができないが、放課後の時間を有意義に使えるので助かる。

「うめっこ塾」(宮田村立宮田中学校)

事業実施状況

担当課・係	宮田村教育委員会 こども室	
活動場所	宮田中学校	
登録人数	1年94名 2年97名 3年95名	
実施日等	平日	—
	土日	土曜日 年間7回 午前9時～午前11時
	長期休業	—
実施教科	国語 社会 数学 理科 英語 音楽 美術 技家	
負担金	なし	
学習形式	個別学習・グループ学習	



コーディネーター	宮田中学校職員(1名)
学習支援員	宮田中学校職員(24名)
ボランティア	—

主なICT機器	ICT機器の活用(有 無)
	—

取組の具体

- 宮田村教育委員会では、平成14年度から児童生徒の土曜日の教育環境を豊かにし、経済状況により学習への取り組みに格差が生まれないようにするため、教育委員会が主催して希望者に実施している。
- 宮田中学校では、本年度は年7回、その都度希望者を募り、生徒の学力をより一層高めるとともに、家庭学習の習慣化を図ることを目的として実施している。毎回2時間、5教科を中心に個別学習または生徒同士の学び合い形式で行い、職員は質問に来る生徒はもちろん、悩んでいる生徒にも積極的に声をかけ、学習支援を行っている。

気づいたことや成果

- 参加生徒数は、第1回(5/13)38名、第2回(7/1)56名、第3回38名と、概ね積極的に参加している。
- 自分で教科と時間を決めて個別学習を行ったり同学年や異学年の生徒で学び合ったりすることを通して、主体的、協働的な学習、学力向上につながっている。
- 分からないところを教員にきくことにより、学習意欲の高まりにつながっている。

課題や反省点

- ・生徒たちは各自で持参した教科書や補助教材等を使って学習をしているが、深い理解に至らないまま学習を進めている姿が見られる。生徒同士の学び合いを活用するなどした理解を深める学習、教員がポイントを示して教える等の工夫をさらに行っていききたい。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇教科毎に先生がついてくれたので、分からない問題について聞くことができてよかった。
- ◇授業で分からなかったところを、復習して分かるようになってよかった。
- ◇家にいてもやる気が起きないけれど、うめっこ塾では集中できたのでよかった。

〈保護者の声〉

- ◇家にいても学習が捗らないことが多いので、大変ありがたい。
- ◇うめっこ塾に参加させたいが、部活動の練習と重なって参加できなかったことがあり、残念だった。

「生坂未来塾」(生坂村立生坂中学校)

事業実施状況

担当課・係	生坂村教育委員会・公民館	
活動場所	B&G海洋センター	
登録人数	7名	
実施日等	平日	—
	土日	土曜日(月2~4回)
	長期休業	—
実施教科	英語・数学	
負担金	なし	
学習形式	個別指導方式	



コーディネーター	行政職員
学習支援員	大学生(4名)
ボランティア	なし

主なICT機器	ICT機器の活用(有 無)
	—

取組の具体

- 学習を希望する生坂中学校の三年生への学習支援。
- 指導では、高校入試後期選抜試験の内容に合わせ英語及び数学の補習学習を行う。
- 実施日は月に2~4回程度で、土曜日の午前中に2時間30分行う。
- 講師は、教員を志望する信州大学の院生及び学生に依頼。

気づいたことや成果

- 個別指導方式のため、生徒一人ひとりが質問等しやすい環境である。
- 出席率について、全体を通して約80%と高く、生徒達も満足していると感じられる。
- 講師の大学生も中学生と関わる良い機会と感じている。

課題や反省点

- ・限られた時間の中で指導を行うため、生徒には事前に予習し、分からない箇所を明白にするよう声掛けしているが、万全ではない。
- ・今年度は、英語と数学の二科目の指導を行っているが、その他教科についても要望があった。
- ・実施日や時間帯について、検討する必要がある。

中学生・保護者の声

<中学生の声>

- ◇分からない箇所を丁寧に教えてくれるので、ありがたい。集中できる環境なので、毎回未来塾に行くのを楽しみにしている。
- ◇英語、数学以外の科目も教えてほしい。
- ◇土曜日以外にも、平日に開催してほしい。(水曜日の放課後等)

<保護者の声>

- ◇金銭面や村外への送迎を考えると、非常に助かる。
- ◇未来塾のお陰で、休日も勉強する姿勢になった。
- ◇次年度も是非実施してほしい。

「教科学習支援塾」(池田町立高瀬中学校)

事業実施状況

担当課・係	池田町教育委員会 生涯学習課
活動場所	高瀬中学校
登録人数	1学期 1年:5人 2年:3人 3年:5人 2学期 1年:3人 2年:4人 3年:6人
実施日等	平日 毎週水曜日 午後3:30~4:30
	土日
	長期休業 夏休み中 6日間 午前8:30~11:20
実施教科	数学・英語
負担金	なし
学習形式	個別学習



コーディネーター	元教員(1名)
学習支援員	元教員(2名) 学習塾講師(3名)
ボランティア	
主なICT機器	ICT機器の活用(有・無) —

取組の具体

- 各学期の始めに、希望調査を行い数学と英語の2つのコースに分かれて学習をした。
1学期は6月から、2学期は10月から、3学期は1月から、それぞれのコースで、年間約20回学習支援を行った。
○夏休み中は、6日間に渡り1日3時間、英語、数学、自主学習を2つの教室(1・2学年と3学年)に分かれて行った。

気づいたことや成果

- 毎週水曜日の学習は、平成25年度から取り組みを始めて、本年度で、5年目を迎えているので、小学校の学習に参加した生徒が受講を希望している。
○学習意欲の高い生徒が多く支援員の皆さんも気持ちよく取り組んでいただくことができている。
また、支援員が1対1で、生徒の学習を進めているので、分からないところがしっかりと理解できる。
○1・2年生の夏休みの取り組みでは、1学期の基本的な事柄の理解不足を中心に取り組むことができた。

課題や反省点

- ・集まってくる生徒に寄り添う支援を行うには、多くの支援員の協力が必要であるが、支援員を新しく確保することは難しい状態である。
- ・生徒と支援員が、毎日かわかれるような、場所の確保を考えることが大切である。
- ・ボランティア、生徒、教員が、いつでも関わることができる部屋を準備することが大切である。

中学生・保護者の声

- 〈中学生の声(夏休みの学習を終えて)〉
- ◇家とは違って静かに集中して勉強ができたのでとてもよかった。
 - ◇不安な所はすぐに先生に聞くことができ、よく分かった。
 - ◇知らなかったこともいくつか教えてもらったのでよかった。
 - ◇また機会があれば教えてもらいたいと思いました。
 - ◇私は英語がすごく苦手で分からないことだらけだったんだけど、分からないことはどんどん聞いて、分かるとうごく楽しかった。
 - ◇集中して課題に取り組めたのでよかったです。ミスの少ない計算の方法を教えてくれてありがたかった。

麻績村筑北村学校組合立筑北中学校

事業実施状況

担当課・係	麻績村筑北村学校組合教育委員会	
活動場所	筑北中学校	
登録人数	全校生徒対象	
実施日等	平日	月1～2回水曜日 15:35～16:35
	土日	月1～2回土曜日 9:00～12:00
	長期休業	夏季休暇(計4回)
実施教科	国語・数学・英語・社会・理科	
負担金	なし	
学習形式	授業形式・個別学習など	



コーディネーター	元教員(2人)・その他(1人)
学習支援員	大学生(7人)・元教員(3人)・その他(1人)
ボランティア	—

主なICT機器	ICT機器の活用(有 無)

取組の具体

- 放課後学習は、数学・理科・英語の3教科の講座に分け、講座ごと担当する指導者によって授業形式と分からないところを生徒が質問する形式があり、希望する講座を生徒が選び学習を行う。
- 長期休業は、夏休みに教室を開放することで自習学習の時間と場所を提供し、学校職員と学習支援員により個別学習での指導や学習支援を行う。
- 土曜日は、午前中「学びの広場」と題して、学習支援員により学習支援を行う。五教科個別学習形式により分からないところについての質問を学習支援員がサポートする。

気づいたことや成果

- 開始当初は、なかなか学習に集中できない生徒が見られたが、時間内は集中して取り組めるようになった
- 個別の学習支援を行うことで、自分が苦手な部分について質問をする等、積極的に苦手な分野に取り組む様子が見られた。

課題や反省点

- ・ 学校で教わる内容と学習支援で教える内容に違いが出てしまわないように、学習支援員と学校との学習内容の摺り合わせ。
- ・ 休日の学習支援を土曜日限定で行っており、土曜日だと都合がつかない生徒もいるが、学習支援員の都合もあるので、実施日をどのように調整すべきか。
- ・ 参加者の固定化の改善。

中学生・保護者の声

<中学生の声>

- ◇ 勉強で分からないところを教えてもらえて、うれしかった。
- ◇ 家ではなかなか集中できないので良いと思う。
- ◇ 集中して取り組める環境があるのは、良いと思う。
- ◇ 勉強をしてくれる人が知っている人なので、質問がしやすくて良かった。
- ◇ 用事があっていけない日もあるので、実施時間を午後にしてほしい。
- ◇ 気軽に行けるように自由参加でいつでも行けるようにしてほしい。

「放課後等学習チャレンジタイム」(塩尻市立丘中学校)

事業実施状況



担当課・係	塩尻市教育委員会事務局 教育総務課学校支援係	
活動場所	丘中学校	
登録人数	1年4名 2年3名 3年23名	
実施日等	平日	午後4時半～午後6時 または午後3時半～午後5時
	土日	
	長期休業	夏休み9日間, 春休み6日間
実施教科	数学、英語、国語、その他	
負担金	なし	
学習形式	個別学習	

コーディネーター	市費学校職員(1名)
学習支援員	元教員7人、その他3人
ボランティア	

主なICT機器	ICT機器の活用(有 無)
---------	---------------------------

取組の具体

- 数学や英語等の宿題, 学習プリント, 自主勉強について, 不明な点などを元教員等による学習支援員が個別に教える。
- 生徒同士で教え合ったり, 問題の解き方を考え合ったりする場面では, 見守りながら必要に応じて支援を行う。

気づいたことや成果

- 継続して頑張っている生徒が成果を少しずつ出していること。昨年度の参加者は全員高等学校へ進学を果たすことができた。
- 日の長いうちは良いが, 冬期間の日没が早くなってしまった場合, 生徒だけで下校させるわけにはいけないので, 保護者の迎えが必要となってしまう点。

課題や反省点

- ・参加希望生徒の意欲がなかなか継続できないこと。
- ・部活動や文化祭の関係で, 2学期始めは参加者が少なく, 講師の先生方の方が多い日があったこと。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

- ◇家でやるのとは違って, 集中してやることができる。このまま続けていきたい。
- ◇講師の先生だけではなく, 友だちにも自然とわからないところを質問したりできる雰囲気が良いと思う。

〈保護者の声〉

- ◇参観日の折に拝見しました。集中して取り組んでいる姿がとても良かった。
- ◇家ではなかなか集中して学習に取り組むことができないので, 友だちとやったり, 講師の先生に見ていただいたりできるのがとてもありがたい。

「放課後学習教室」(松川村立松川中学校)

事業実施状況

担当課・係	松川村教育委員会 学校教育課	
活動場所	松川中学校	
登録人数	3年生 70名	
実施日等	平日	毎週水曜日 午後3:45～4:45
	土日	—
	長期休業	—
実施教科	国語 社会 数学 理科 英語	
負担金	なし	
学習形式	個別学習	



コーディネーター	行政職員(1名)
学習支援員	元教員(16名)
ボランティア	—

主なICT機器	ICT機器の活用(有)無)
	タブレット40台

取組の具体

- 年度当初に参加希望を募り、本年度は71名が参加している。5教科をそれぞれ4人～6人グループに編成し、合計で14講座が開設されている。
- 水曜日の放課後に実施し、地域の支援員の先生方が来校され、子どもと個々にかかわりながら個別学習の支援をいただいている。
- 昨年度導入していただいたタブレットを活用する生徒は多く、自分の課題に合わせてドリル学習や調べ学習が行われたり、わからないことを検索したりする生徒の姿は増えている。

気づいたことや成果

○昨年度末に個人学習に活用できるソフトウェア(e-ライブラリ)を導入していただいているので、追究したい生徒に加えて、ドリル的な学習をしたい生徒にも対応できるようになり、生徒のICT機器活用の幅が広がっている。

課題や反省点

・講座によってICTを活用できる講座とそうではない講座があり、タブレットの稼働率は昨年よりも上がっているが、使用している生徒が限られている。ICT機器を活用して支援ができる講師が少ないことも原因の一つである。
 ・年度当初に放課後学習で使用できるICT機器を紹介して、支援員の先生方の積極的な活用を促していく。

中学生・保護者の声

〈中学生の声〉

◇放課後学習は自分のペースで学習ができるし、わからないことがあるときは担当の先生に聞けばすぐに解き方や答えがわかるのでいいと思う。タブレットもいつも使えるので、必要な時に使えて嬉しい。
 ◇わからないことを友達に聞いたり相談したりすることができるので、少ない人数で学習できて良いと思う。

〈保護者の声〉

◇3年生にとって学習の時間が少しでも確保できる放課後学習は、とてもありがたく思っています。今後ともよろしくお願いします。

「夏期セミナー[1・2年生]」・「学習支援セミナー[3年生]」
(小布施町立小布施中学校)

事業実施状況

担当課・係	小布施町教育委員会 子ども支援係	
活動場所	[夏期]小布施中学校 [学習支援]北斎ホール	
登録人数	[夏期]1年生33名 2年生29名 [学習支援]3年生25名	
実施日等	平日	[学習支援]毎週火・木曜日 放課後午後7時～9時 午後6時～8時
	土日	
	長期休業	[夏期]夏休み3日間
実施教科	数学 英語	
負担金	[夏期]1,000円(3日間) [学習支援]2,000円/月	
学習形式	授業形式(個別学習あり)	



コーディネーター	[夏期・学習支援]行政職員(1名)
学習支援員	[夏期・学習支援]塾講師(2名)
ボランティア	[学習支援]その他1名

主なICT機器	ICT機器の活用(有)無)
	[夏期・学習支援]タブレット7台

取組の具体

- [夏期]○夏休み中の3日間で、1学期の数学と英語の復習授業を行う。
○講師は信学会に委託し行っている。
- [学習支援]○火曜日が英語、木曜日が数学の授業形式で学習を行う。
○講師は信学会に委託し、前半は中学3年生の学習習慣の形成、後半は受験を意識した学習を行っている。

気づいたことや成果

- [夏期]
○一学期の復習だけでは足りないの、学年が上がる前の春期セミナーも必要ではないか。
○長期休業の中の数日なので、部活動のある生徒達には参加しやすい。
○中学校と連携を取り行ったので、部活動の時間の調整等の配慮があったため、生徒が参加しやすかった。
- [学習支援]
○学習支援セミナーを受講した生徒の成績や学習への意欲が上がっている。
○継続して学習を行う環境があるため、学習習慣のなかった生徒の学習習慣の形成が出来ている。

課題や反省点

- [夏期]
・レベルの異なる生徒への対応。
- [学習支援]
・学習が必要と思われる生徒ほど継続が困難で、義務ではないため、強制できるわけではなく、難しい。

中学生・保護者の声

- 〈中学生の声〉
◇夏休み中の学習が意識できた。[夏期] ◇自分のわからないところがどこなのかはっきりした。[夏期]
◇成績が上がった。[学習支援]
◇補習もしてくれるので、わからないところは先生がしっかり教えてくれてありがたい。[学習支援]
◇自分の成績がどの程度なのか意識できるようになった。もう少し上を目指そうという気持ちになれた。[学習支援]
- 〈保護者の声〉
◇夏休みだけでなく、春休みもやってほしい。[夏期]
◇塾に行っているわけではなかったの、ここに来て学習ができればありがたい。[学習支援]
◇自分の子どもの志望校が難しいのか、それとももう少し上を目指せるのかということが具体的に見えてきた。[学習支援]